

# 企業事例 17

～意欲あふれる多様な人材が活躍する  
企業風土づくりをめざした障害者雇用への取り組み～

## ◆会社概要◆

本 社 愛知県  
創 業 昭和24年  
従業員数 33,362名  
連結従業員数 95,461名  
事業内容 自動車部品製造業

### 1. 取組みの経緯

同社では、社会貢献の一貫として、昭和47年に地域の作業所に部品組み立て製造の委託を始めたことがきっかけとなり、障害者雇用への取組みがスタートした。当時、同社における障害者の雇用率が0.3%と「障害者の雇用の促進などに関する法律」で定められる法定雇用率1.5%（当時）を満たしていなかったことから、昭和53年より技能職社員としての聴覚障害者の定期採用を始めた。この定期採用の実施によって、障害者雇用が進み、昭和63年には法定雇用率が1.6%（当時）を超え、さらには聴覚障害者だけでなく、知的障害者や下肢障害者の定期採用も開始された。

また、昭和59年には「保護より機会を！」を基本理念として、障害者の社会参加に取り組む社会福祉法人との合併により障害者雇用のための特例子会社を設立した。

### 2. 取組みの状況

同社における聴覚障害者の採用が始まった昭和53年当初から、職場や寮で世話係をつけ、円滑な会社生活が送れるようにするなど配慮をしてきたが、長い年月を経る中で、健常者と聴覚障害者との意識や意思疎通に壁が生じるなどの問題が発生した。そこで、人事・教育担当者を含んだワーキング・グループを結成し、障害者が配属されている現場に対してアンケート調査を実施して、問題点の洗い出しを行った。その結果をふまえ、健常者と聴覚障害者がコミュニケーションを取るための支援策（手話通訳派遣、手話講習会、健常者に対する聴覚障害の理解研修など）や、聴覚障害者が生き生きと働けるような支援策（聴覚障害者専用の技能教育体制の整備など）を打ち出し、必要なインフラの整備を進めるなかで、課題が解決されてきている。

また、同特例子会社と社会福祉法人は同一敷地内にあり、従業員（障害者）の健康管理や生活指導については社会福祉法人が担い、仕事の提供と生産指導につ

いては特例子会社が行うことによって、障害者の自立を支援している。

特例子会社での職場環境整備の推進に際し、同社では工場の設計などにさまざまな工夫を凝らしている。車いすでの移動を考えて通路の段差をなくし、工場内のバリアフリー化を図っている。作業工程をできるだけ細分化・合理化し、効率よく作業が進められるようにすると同時に、ベルトコンベアの位置を低くするなど、製造技術面や安全面に細かな配慮をしている。また、社員からの提案により、片手で楽にはんだ付けができる装置や、車いすを作業台の高さに昇降させる調整装置など、工具の改善や創意工夫がされた補助設備を導入している。

自動車関係の部品は、お客様の生命に関わるものであるだけに、不良品は絶対に出せないと、特例子会社でも、品質管理に最も気を遣っている。本社からスタッフを派遣し、個別指導を行うなど技術習得のために様々な工夫をしている。

### 3. 取組みの効果

地域社会に根ざした社会貢献という意味で、地域の養護学校や聾学校から従業員を採用、地域の障害者の雇用促進に貢献していることから、地域におけるグループ全体のイメージ向上につながっている。

また、健常者と障害者が同じ職場で仕事をすることによって、職場における相互理解が深まることにより、障害者の社会参加が当然のことと思う風土が醸成できる社会の創造に発展していくことを願っている。

### 4. 今後の課題

これまで同社では、聴覚障害者を中心に雇用し、製造現場での就労という取組みだったが、今後は、障害の部位の拡大と働く職場開発に努め、ハード面、ソフト面の両面でノーマライゼーションの促進に取り組んでいきたいと考えている。

#### 特例子会社 会社概要

設 立	昭和59年3月30日
資 本 金	1500万円
出資比率	本社 51% 社会福祉法人 49%
生 産 品 目	自動車用コンビネーションメータの組み立ておよび関連部品の加工（軽自動車用のコンビネーションメータ生産の50%を生産）
社 員	67人（障害者61人）
モットー	「障害者だから」という甘えはありません。「キチンと決め」「キチンと守る」ことを徹底して実践することで、やればできるんだということを証明できるようになってきました。